

生徒の自立心と協調性を育む寮生活の指導

—ルールづくりと行事の運営から—

羽 田 真 (早稲田大学本庄高等学院)

1. はじめに

全国1,319校の私立高校のうち、寮（寄宿舎）を設置するものは452校（34.3%）ある¹。実入寮者総数は33,771名であり²、私立高校生のうち1割以上が寮生活を送る計算になる。このように、寮生活を送る高校生は決して珍しくない。また、ボーディング・スクールとして名高い英国イートン校のような全寮制学校をはじめ、寮の設置を特色として打ち出している私立学校も多い。これらの学校では、寮における生活指導を学校教育の一環として重視しており、メディアからも注目されている³。

一方、寮の運営・指導に関する情報交換や実践の成果共有が積極的になされてきたとはいえない。寮における指導の多角的な調査・研究はほとんど存在せず、各校はそれぞれが積み上げてきたノウハウに頼る状況であると思われる⁴。生徒の学習意欲を引き出し、また集団生活に適応させるにはどうすればよいか、試行錯誤する学校も多いであろう。中には、寮内のいじめ等の深刻な問題が訴訟となったケースもある⁵。どのように寮の指導を行うべきか、調査・研究に基づく新たな提案が求められる。

本研究は、特に生徒の自立心と協調性を育む指導のあり方について検討するものである。寮における集団生活を通じた人格の陶冶は、教育の基本目標として概ね共有可能であろう。そこで、寮のルールの運用と行事に着目してアンケート及びヒアリングによる調査を行い、寮における指導のヒントを帰納的に導くことを考えた。建物・設備などハード面の条件は寮により様々であるが、ルールや行事についてはそれらに左右されず、一般的な示唆が得られるであろうと思われたからである。

2. アンケート調査から

2013年12月、生徒寮をもつ全国の私立中学・高等学校の寮担当者を対象にアンケート調査を行った。各学校のウェブページを確認して施設や沿革の紹介から寮を設置していると判断した272校（北海道・東北46校、関東39校、中部35校、近畿43校、中国・四国50校、九州・沖縄59校）を対象とした。アンケート用紙（記名式）と返信用封筒を各学校長宛に郵送したところ、1月下旬までに167校から回答が寄せられた（回収率61.4%）。そのうち無記名のものが2校あったが、集計結果には含めている。全校生徒に占める寮生比率は10%未満であったとした学校が79校で、無回答（7校）を除くと半数を占めた。寮生比率が30%以上であったとした学校は33校（うち12校は90%以上と回答）であった。アンケート記入者の職名が明記されていたのは136校で、「校長・副校長・教頭」（39校）が多く、「教諭」（23校）との記載のほかは「寮務部長」「寮監長・舎監長」などであった。

以下、回答の後に示したパーセンテージは各設問の有効回答に占める比率である。紙幅の都合によりすべての設問及び回答を示すことができないため、必要な部分を抜粋する。

まず、寮の指導の目的を探るため、「学校に寮を設置することの最大のメリット」（単回答、8選択肢）について尋ねた。回答は「（寮生の）生活習慣の確立」（29.5%）、「生徒募集上の優位性」（29.0%）、「（寮生の）人格の向上」（17.5%）の順に続いた。また「その他（具体的に）」のうち「遠隔地からの生徒受け入れ」

等とするものが14校あり、これを「生徒募集上の優位性」に含めれば37.7%となる。このことから、教育の場として有用であるだけでなく、寮の設置により広く生徒を集めることができることも私学にとってメリットとなっていることが分かる。なお、寮生比率30%以上の学校に限ると「(寮生の) 人格の向上」が最も多く(32.6%)、寮の指導を特に重視していることがうかがわれた。

「寮における指導の目標(寮生が育むべき人間性・資質)として重要と考えるもの」(単回答、8選択肢)を尋ねると、「自主性・自立心」(39.2%)、「規則正しい生活習慣」(29.3%)、「寛容・協調性」(11.7%)、「公共心(マナー・道徳)」(7.0%)と続いた。生徒指導提要是、生徒指導の前提として「自発性・自主性」「自律性」「主体性」を育むべき資質として示しており⁶、寮における指導とこれらが親和的であることが認められた。また、「基本的な生活習慣の確立は、自主性や自律性をはぐくむという生徒指導を進めていくために不可欠」⁷であり、寮は生徒指導の重要な場と考えられている。

次に、「寮のルールや行事のあり方により、自立心・協調性を育む指導が可能である」との仮説をもとにした設問と回答を示す。

「寮のルールのうち、教員が直接的に指導・監視するのではなく、主に寮生自身の自主的な取り組み(リーダーや当番を決めて相互に点検をする等)によって有効に機能させることが可能と思われるもの」(複数回答、11選択肢)という設問に対し、半数以上が選択したのは「清掃・環境美化に関するもの」(82.4%)、「入浴・衛生管理に関するもの」(50.3%)、「寮生相互の人間関係に関するもの」(50.3%)のみであった。寮生の自治的な活動によって十分機能させられるルールは限定されており、集団生活における規律を維持していくため教員による直接の指導が少なからず求められていることが分かった。特に、「携帯電話・パソコンの使用に関するもの」(20.0%)、「所持品に関するもの」(16.4%)の選択は少数であった。後述するヒアリング調査においても携帯電話や所持品のルールについての指導は試行錯誤が多いとの回答があり、寮生自身に任せて規律を維持することは難しいようである。

「寮生活上必要な仕事を分担して受け持つ寮生の自治会・委員会・役割等」(記述)については110校から何らかの回答があった。寮長・自治委員長等の寮生リーダーを置いているというものが多く(66校)、清掃・環境美化についても38校が生徒の委員会を中心に実施・点検しているとした。また、22校は行事やレクリエーションの企画・実施を担う組織として寮生会や行事委員会を挙げた。寮長・リーダーの役割は、寮監・舎監との連絡や下級生への指導だけでなく、点呼、見回り、清掃点検などまとめ役として様々な役割を担っていることが分かった⁸。「自治会はない」という回答もあり、生活を寮生の自主性に任せることにより自立心・責任感・協調性などを育む寮指導の難しさもうかがわれた。

続いて、行事に関する問を設けた。「寮生のみが参加する行事・レクリエーションにはどのようなものがあるか」(記述回答)という質問に対し、何らかの回答をしたのは133校であり、「入卒寮式」(70校)を除くと最多は「クリスマス会」(54校)であった。「歓迎会」(35校)、「送別会・予餞会」(20校)の回答も目立った。また、生活のアクセントとなる行事としては「スポーツ大会」(35校)が多く、内容はバスケットやバレーといった屋内の球技がほとんどであった。他には、「バーベキュー等」(29校)、「誕生会」(16校)が多く、「七夕・もちつき」等の季節行事も複数の回答があった。

「寮の行事を行う主たる目的」(単回答、9選択肢)については、「寮生どうしの仲間意識を高める」(58.1%)が圧倒的に多く、「寮生としての帰属意識や誇りを高める」(13.7%)、「気分転換」(11.2%)、「協調性を育む」(8.8%)と続き、「企画・実行力を育む」等その他はそれぞれ3%未満であった。

一方、「寮の行事を実施するにあたり、特に留意していることや重要と思われること」(記述回答)という問いに対しては84校から回答があったが、整理すると「寮生の自主性を尊重する、主体的に運営させる」(30校)、「全員参加できる・させること」(12校)という内容が比較的多かった。これ以外の回答につい

ては「学年を超えたグループ作り」、「日ごろ関わりのない生徒どうしを交流させる」のように、寮生の仲間意識や連帯感、協調性を高めるような工夫を重視するものが目立った。

最後に、「寮生の自主性・協調性を育むために最も大きな影響を及ぼすと思われる要因」（単回答、8選択肢）については、「教員・管理者の生活指導」（44.3%）、「寮のルールの内容・運用」（33.7%）に回答が集中し、「寮の行事」（3.2%）は少数であった。先の設問と合わせて考えると、教員や管理者の生活指導が、寮生の自主性・協調性に大きく影響を与えていることがうかがわれた。

3. ヒアリング調査から

2013年12月～2014年2月にかけて右表の5校を訪問し、寮担当者に直接インタビューする形でヒアリング調査を実施した。対象はいずれも進学校であり、全寮制はとっていない。インタビューは寮担当の教職員であるが、一部の学校では合わせて寮監・寮生の聞き取りも行った。また、各寮の施設についても見学した。

A校	関東	共学・男子／女子寮
B校	関東	共学・男子／女子寮
C校	中部	男子校・男子寮
D校	九州	共学・男子／女子寮
E校	九州	共学・男子寮

A校は、協調性を育むために相部屋であることが大きいという。嫌でも顔を突き合わせるし、ルールを決めなければならないからだ。指導上の難しさはあるが、自己管理の意識も高まるそうである。また、「自立心・主体性を伸ばそうという学校の方針がなければ、寮もそうはならない」という。単に寮生活をさせるだけではだめで、学校としての指導が前提として必要とのことである。

B校は寮教育に力を入れており、自立した生活習慣を確立するだけでなく、集団生活の中で他者を認め、様々な問題を解決し乗り越えていく力を身につけることを目指している。行事の企画・実施や衛生・美化などを寮生が主体的に行い、教員は与えすぎず支援に徹することで成果が上がるという。

C校は近年、担当教員が変わってから寮行事に力を入れ始めた。勉強しろ、規律を守れというだけでは息が詰まるからだ。寮生が企画を考え、実行していく過程で結束力が高まるという。清掃の指導や点検も寮生が縦割りで行っているが、十分機能しているようだった。

D校は寮の歴史が浅いこともあり、ルールや行事を学校が主導して決めていた。「ルールづくりに寮生が関与するのは望ましいが、実際は難しい」ため、意見箱の設置や寮生会長との対話により要望をすくい上げている。行事はボウリング大会や映画鑑賞会、バーベキューなど息抜きになるようなものが多いが、帰省や部活動との関係で全員参加させられないのが課題であるとのことだった。

E校からは、特に学校全体にとっての寮の有用性について示唆を得た。夜の生活が見えることで学校にとってのアンテナとなるし、寮生に対して社会性・協調性を身に付けさせると、それが通学生に波及する。人数は通学生の方が多いが、寮生がいることで学校にいい影響があるという。

これらの調査を通じ、寮指導のあり方についていくつかの共通点を見出した。まず、行事の必要性である。何かと不自由が強いられる寮生活の不満を軽減し、仲間意識を高め、メリハリをつけるためにイベントの実施が有効に作用する。その企画・実施に寮生を参加させることにより、自立心・協調性がいつそう育まれることも期待できる。また、教員の指導の重要性も多く指摘していた。自立心を伸ばすといっても放任は好ましくない。対話を重ねて寮生を信頼し、仕事を任せて見守るが、手綱は解かずという距離感が見えてきた。加えて、他の寮の実践や指導の成果についての情報交換の機会についても強く求められていることが分かった。九州・四国地区ではいくつかの学校が集まって寮担当者の懇談・協議会を昨年に行っているという。意見交換・ノウハウ共有の方策が望まれる。

4. おわりに

本研究は、寮生活の指導が公教育の目標たる人格の完成に資することを実証し、とりわけルールづくりと行事の運営により成果が得られることを示した点において意義がある。具体的には、清掃等は単に分担させるだけでなく委員会を組織したり自主的な取り組みを促進したりすること、クリスマス会等の行事を寮生が主体的に企画・実施できるようにすることが自立心・協調性を育むために重要ということになる。また、情報交換の機会不足という問題を確認することもできた。寮の指導の実態についての調査・研究は今後の進展が待たれる。本研究のアンケート・ヒアリング調査には多くの学校・先生方に協力いただいた。貴重な時間を割いて下さった先生方には心より感謝を申し上げたい。

¹ 日本私立中学高等学校連合会提供の統計資料による。なお具体的な学校のリストは非公表とのことであった。

² 同上。

³ 私立学校の寮における生徒指導や、寮生活を送る中高生の成長を報じた例として、連載「いま子どもたちは：自由と自律」（朝日新聞 2012 年 9 月 27 日～10 月 14 日）。

⁴ 私立高校の寮の調査研究として、山本和代（1971 年）「高校の寮教育—私立学校の現状と問題—」日本女子大学教育学会人間研究 7 号 23 頁がある。古いが、全国の寮の実態について寮監を対象に調査を行い、寮教育における諸問題を指摘するものとして興味深い。山本は、他校との情報交換を望む寮監の意見をもとに「各地で研究会、研修会が開催されることを望みたい」「寮監たちの生活体験、学習活動を通じて、新しい生活教育の理論がつけられ、よりすぐれた実践の方法が生み出されることを望みたい」と述べ、研究組織の検討の必要性を主張している。その他、特定の学校の寮における指導に着目した研究はあるが、一般的・普遍的かつ有益な示唆を得うる近時の研究は見当たらない。高等専門学校における寮について検討したものとして吉田正道（2012 年）「高専の技術者教育に果たしてきた教育寮の役割と課題」日本高専学会誌 17 巻 2 号 39 頁があるが、実証的な研究といえるものではない。その他一般向けの書籍のうち全寮制教育に触れたものとして、鈴木隆祐（2013 年）『海陽学園が変える日本の教育』（日本実業出版社）等がある。

⁵ 一例として、拙稿（2013 年）「高等学校の生徒寮における安全配慮義務」教育と研究（早稲田大学本庄高等学院研究紀要）31 号 29 頁参照。

⁶ 文部科学省（2010 年）『生徒指導提要』（教育図書）10 頁。

⁷ 同、142 頁。

⁸ 尾木直樹編（2011 年）『子どもが自立する学校』（青灯社）199 頁は、高度な寮生自治が機能している例として自由学園を紹介している。大人の舎監を置かずに寮生活をさせる実践は他にないだろうという。